

■佐川官兵衛 会津藩士として、薩長から“鬼官兵衛”と恐れられ、警視官として出陣した西南戦争では、地元民に慕われた。
さがわかんべえ
富嶽三十六景1831＝ 会津城下で、300石の藩士佐川幸右衛門直道の嫡男に生まれる。幼名は勝、諱は直清。

大塩平八郎乱1837＝ 6歳：

勲進帳初演・1840＝ 9歳：
_代々、物頭(足軽一組の長)を務める武道に熱心な佐川家の子として、幼時より武道に励み、馬術と剣術に秀で、放たれた鳥を騎馬で射落とす“追鳥狩”では、真っ先に捕獲したという。

阿部正弘首座1845＝14歳：

北斎没・・・1849＝18歳：

ペリー来航・1853＝22歳：

蕃書調所・・・1857＝26歳：_父の隠居により、家督を相続するが、血の気は多く、
五ヶ国条約・1858＝27歳：_江戸在勤中、藩命によって加賀藩邸に見舞いに向かった際、幕府の火消し隊ともめ事を起こし、旗本を惨殺、改易を恐れた旗本が内々に済まそうとしたため、表面化はしないで済むも、100石減禄の上、物頭を罷免され、国許で謹慎となる。その間、学問に励んで、文武両道の士へと成長、

桜田門外変・1860＝29歳：
生麦事件・・・1862＝31歳：_謹慎を解かれて、物頭に復職、
禁門の変・・・1864＝33歳：会津にいたため、禁門の変は経験せず。

薩長同盟・・・1866＝35歳：_藩主松平容保に従って上洛し、{京都日新館}の学校奉行に任じられるとともに、すでに、将たる人徳を備えていたらしく、弓馬槍力のうち二つ以上の免許を得た藩士で構成する{別撰組}と、若手藩士で構成された{書生組}の隊長にも任じられる。

大政奉還・・・1867＝36歳：
明治維新・・・1868＝37歳：*鳥羽伏見の戦いが勃発すると、{別撰組}を率いて出陣、初陣となるが、近代兵器で武装した薩長軍の前に、三分の二が死傷、自らも、刀を折られ、右目を負傷しながら、殿を務めて奮闘、その勇猛さで、薩長から“鬼官兵衛”とあだ名される。兵制改革の必要性を感じ、江戸に引上げて、フランス式訓練を学び、会津に戻ると、18歳から35歳の藩士で構成された{朱雀士中組}の中隊長に任じられ、越後口に出陣、総指揮官に代わって、現場の指揮をとり、長岡藩家老河井継之助と談判して、奥羽列藩同盟に加盟させ、ともに、敵の進軍を食い止め、豪胆な勇将ぶりで、名声が高まる。白河口が破られ、命令に従って、鶴ヶ城に戻ると、加増に加増され、一千石の家老に抜擢される。母成峠の敗報に、総指揮官を命じられて出陣するも敗北、会津城下の反撃作戦でも総指揮官となり、最大の激戦を演じるも大敗、父も戦死している。以後、城外部隊として戦ううち、会津藩は降伏するも、拒否したが、藩主松平容保からの親書で降伏。切腹を望むも許されず、藩主や家老、若年寄とともに、東京で謹慎生活。性格は直情的だが人情に厚く、多くの会津藩士から信頼され、会津には、二基の慰霊碑があって、毎年、供養祭が行われる。

初の日刊新聞1870＝39歳：_謹慎生活中に、2番目の妻が死去。喜多方にある佐川の墓に並んで墓がつくられている。
明治6年政変 1873＝42歳：_謹慎を解かれ、旧会津藩が再興された南部の斗南藩へ移住、
佐賀の乱・・・1874＝43歳：_会津に戻り、隠居生活に入ったところ、*警視庁が創設されるも、警視官の定員が埋まらず、能力あれば出身藩にこだわらない大警視川路利良の意向で、出仕の要請。困窮する会津士族を救うために出仕を決意し、旧藩士300名を連れて上京、もともと実力が知られていたことから、大警部に任じられ、その剛毅朴直ぶりで、一目を置かれる存在になる。

三つの内乱・1876＝45歳：_三番目の妻との間に、長男が誕生。
西南戦争・・・1877＝46歳：*西南戦争が起こると、檜垣直枝権少警視が指揮長の豊後口第一号警視隊一番小隊長として出征、阿蘇郡に進み、大規模な暴動を起こし、薩摩軍に協力的な農民一揆の首謀者の捕縛や、鎮撫に奔走しながら、転戦。大量の弾薬が届いたことで、警視隊を二分し、檜垣と両面から攻撃したが惨敗、被弾し戦死した。警視官の全戦死者900名中、2番目の高位であった。遺体が翌々日に農民によってなされたように、南阿蘇では官軍の略奪行為を厳しく戒めて、地元民に慕われ、当地には七基の慰霊碑があり、今も供養祭が行われている。